



関西学院大学高等教育推進センター

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155
TEL.0798-54-7420 FAX.0798-54-7421

第17回(二〇二二年)カレッジ・コミュニティ調査基本報告書

二〇一三

関西学院大学高等教育推進センター

われわれの大学を よりよく理解するために (XVII)

—— 第17回(2012年)カレッジ・コミュニティ調査基本報告書 ——

2013年3月

関西学院大学高等教育推進センター

はじめに

この「カレッジ・コミュニティ調査」は、高等教育推進センターの前身である総合教育研究室が指定研究プロジェクトとして1976年度以来隔年で行ってきた学生の実態調査を、2010年度に高等教育推進センターが開設されてからセンターの主要業務の一つとして引き継いだものである。

今回の調査は1976年度の第1回調査から数えて第17回目に当たる。第15回までの総合教育研究室の研究プロジェクトによる調査は、基本的に、学生の大学生生活の実態や心理的適応などの現状把握に焦点が当てられ、時系列的な変化をみるために、「学生生活の実態」「目的意識・価値観」などの項目が継続的に調査されてきた。今回の調査においては、これらの調査項目を引き継ぎながらも、大学の各部局から今後の施策に役立つと考えられる質問項目を追加したのが特徴である。一例をあげると、「授業、予復習・宿題、課外活動、アルバイト、交友に費やす時間」「海外留学の経験」などの質問項目を付け加えている。本報告書は、このように高等教育推進センターとしての役割を考慮しながら質問項目を追加修正した調査結果を、これまでと同様に、記述統計による単純集計、および、クロス集計の結果を用いて調査概要を分析したものである。

大学を取り巻く環境はますます厳しくなる一方である。わが国の雇用環境の変化や人材のグローバル化を考えると、大学教育の質そのものが問われるのは言うまでもない。例えば、雇用環境について言うと、20代前半の若者の100人に55人しか正規雇用に就けない状況にある。このような中で、関西学院大学として、社会に送り出す学生の質をどのように保障するのかは大きな課題であるが、同時に、すべての高等教育機関に投げかけられた問題でもある。

現在、多くの大学で、学生の質の保証を客観化するために、入学から卒業までのEM（エンrollment・マネジメント）やIR（インスティテューショナル・リサーチ）の導入が検討され始めている。高等教育推進センターでも、2013年度からEMとIRの本格的な取り組みを始める。

このEMやIRの取り組みにより、これまでの行ってきた「カレッジ・コミュニティ調査」の実施の仕方や調査項目が大幅に変更されることが求められる。その意味では、1976年度の第1回調査からの継続性を重視した調査は今回が最後になる公算が大きい。

最後に、今回の調査に協力していただいた学生の皆さんに心からお礼を申し上げたい。この調査結果が関西学院大学の教育の向上につながることを望むものである。

2013年3月

高等教育推進センター長 村田 治

われわれの大学を よりよく理解するために (XVII)

第17回カレッジ・コミュニティ調査基本報告書

目 次

はじめに	1	(6) 大学生活への心理的不適応 (Q13)	96
I 調査の概要	5	まとめ	98
II 調査結果		4. 大学施設	
1. 入学動機		(1) アメニティ (Q24)	101
(1) 大学への進学動機 (Q10)	17	(2) 通学手段 (Q22)	106
(2) 関西学院大学への進学理由など (Q11)	25	(3) 大学での昼食 (Q23)	110
まとめ	31	(4) 喫煙 (Q25)	113
2. 大学生活の実態		(5) 図書館サービス (Q19)	114
(1) 履修登録と出席状況 (Q2)	32	まとめ	125
(2) 生活時間 (Q3)	37	5. 大学生活の充実度・評価	
(3) 諸活動の重視度 (Q6)	47	(1) 学生生活の充実度 (Q1)	127
(4) 大学教員との接触 (Q14)	51	(2) 周囲に関学への入学を勧めるか (Q12)	129
(5) 留学生や外国人教員との接触 (Q20)	55	(3) 関学での生活が役立つか (Q15)	131
(6) 親しい友人 (Q7)	57	まとめ	133
(7) 大切だと感じている人々 (Q9)	60	6. 大学環境の認知	
(8) 情報収集の手段 (Q17)	63	(1) 大学環境調査について	135
(9) コミュニケーション手段 (Q18)	75	(2) 全体的な所見	137
まとめ	81	(3) 属性別に見た特徴	138
3. 目的意識・価値観および適応		7. 自由記述のまとめ	142
(1) スクールモットー・使命の認知・理解度 (Q8)	83	III 全体のまとめ	150
(2) 在学中に身につけたい知識や能力 (Q4)	85	IV 参考文献・調査票等	
(3) 在学中にしておきたいこと (Q5)	88	・参考文献・集計結果URL	155
(4) 海外留学の経験・期間 (Q21)	90	・第17回カレッジ・コミュニティ調査票	156
(5) 重視する暮らし方 (Q16)	93		

I 調査の概要

1. 調査の方法

第17回調査の方法は以下の通りである。

調査期間： 2012年10月1日（月）～ 11月26日（月）

調査対象： 本学に在学する全学部学生23,057名から系統抽出法により5分の1を抽出し、留学中の学生などをのぞいた4,472名を対象とした。

調査方法： 対象者に調査票と返信用封筒を送付し、11月26日までに返信のあった回答について、集計を行った。

回収数： 1,101件 回収率24.6%
(回収率) (ただし、所属学部、学年等が不明な調査票を含む)

調査票： 調査票の内容は、大きく3つに分かれている。第I部は、学生個人の生活実態、目的意識・価値観などをたずねる25項目、回答者の属性を問う9項目から構成されている。第II部は、大学環境全体の認知を問う60の質問項目で構成されている。最後に自由記述欄を設けている。

グラフと表： 比率については、個々の数値を小数点第2位で四捨五入しているため、100%を超える場合や、満たない場合がある。
所属学部や学年など属性による集計は、属性が不明な回答をのぞいて集計としているため、合計が1,101とならない場合がある。

学部比較： 神学部は有効回答数が4件のため、学部比較からは原則としてのぞいている。また、国際学部は2010年度開設のため、1～3年生のみとなっている。

2. 調査票構成

今回使用した、「第17回カレッジ・コミュニティ調査」の調査票は、本報告書の巻末に添付している。第I部は、学生の大学生活の実態を把握するものであり、第II部は、大学生活におけるさまざまな側面から大学の環境を学生がどうとらえ、どう評価しているかを明らかにする「大学環境調査」である。そして、最後に第I部、第II部の質問でとらえきれない意見を聞くために自由記述欄を設けている。

第I部は、質問の順は、必ずしもまとまっているわけではないが、入学動機、大学生活の実態、目的意識・価値観および適応、大学施設、大学生活の充実度・評価についてたずねる質問群で構成されている。質問項目については見直しを行い、学習時間、在学中に身につけたい能力、留学経験などをたずねる質問を加えるとともに、時代にそぐわない選択肢を見直している。

第II部の「大学環境調査」は、立教大学学生部がカリフォルニア大学で発案されたCUES (College and University Environment Scales) を翻訳したものである。本来の5領域各20項目の質問のうち、「実用性」「学究性」「共同性」に関する60項目を採用している。

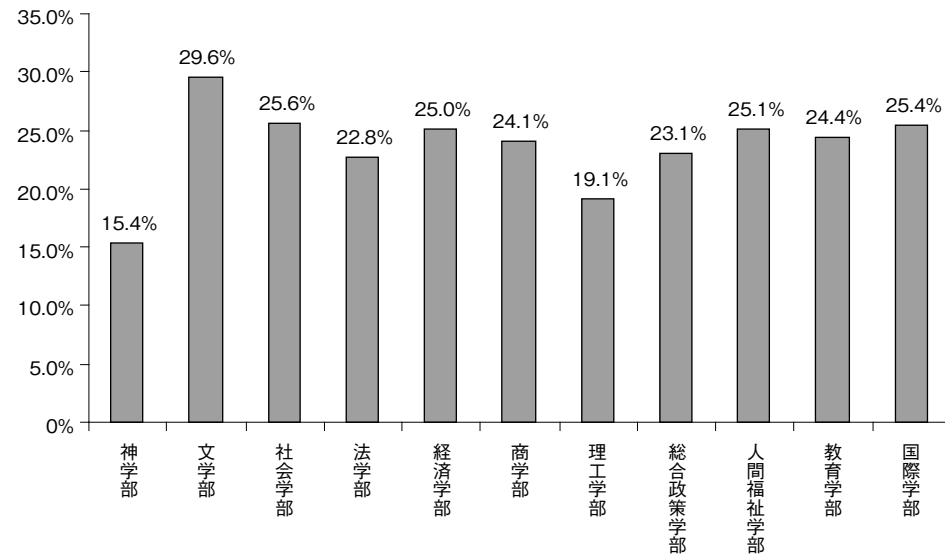
3. 回収率

今回の調査は、11学部の全学生23,057名から無作為抽出した4,472名に対して行ったもので、回収数は、1,101件、回収率は、24.6%であった。前回調査の24.0%と同程度の回収率であった。

表1-1 (p.14) に全学部生23,057名 (母集団) と抽出された4,472名の学部、学年、男女別の構成及び有効回答票数と回収率を示した。表1-2 (p.15) は、学部、学年、男女別に母集団と回答者の構成比率を示し、また、回答者のGPA、入試種別、住居、通学時間、団体参加について学年、学部、男女別に示した。

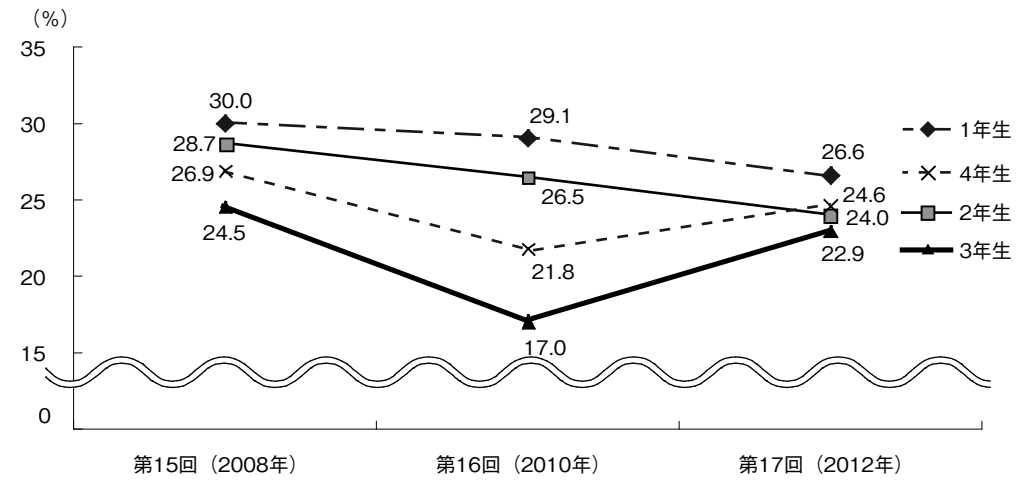
学部別の回収率を図1-3-1に示す。学部別の回収率は、15.4%～29.6%となっており、文学部、社会学部、国際学部、人間福祉学部、経済学部の順に高く、これらの学部は全体の平均回収率を上回っている。

図1-3-1 学部別回収率



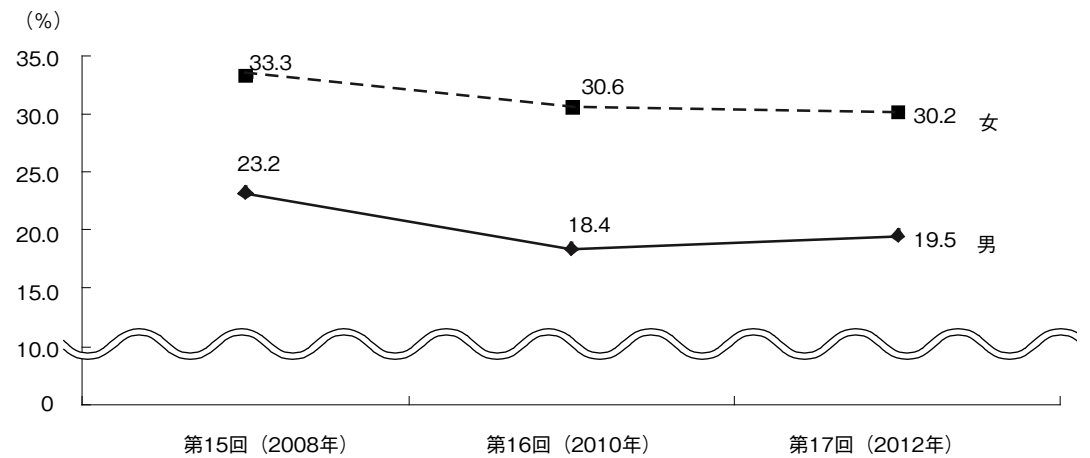
学年別の回収率を図1-3-2に示す。学年別の回収率は、1年生26.6% (前回29.1%)、2年生24.0% (26.5%)、3年生22.9% (17.0%)、4年生24.6% (21.8%)と、学年ごとの回収率の差は縮まっているが、3年生が最も低いという傾向は、前回同様である。

図1-3-2 学年別回収率



男女別の回収率を図1-3-3に示す。男女別では、男性19.5% (前回18.4%)、女性30.2% (30.6%)となっており、これまでの調査と同様、女性の回収率が高い。

図1-3-3 男女別回収率

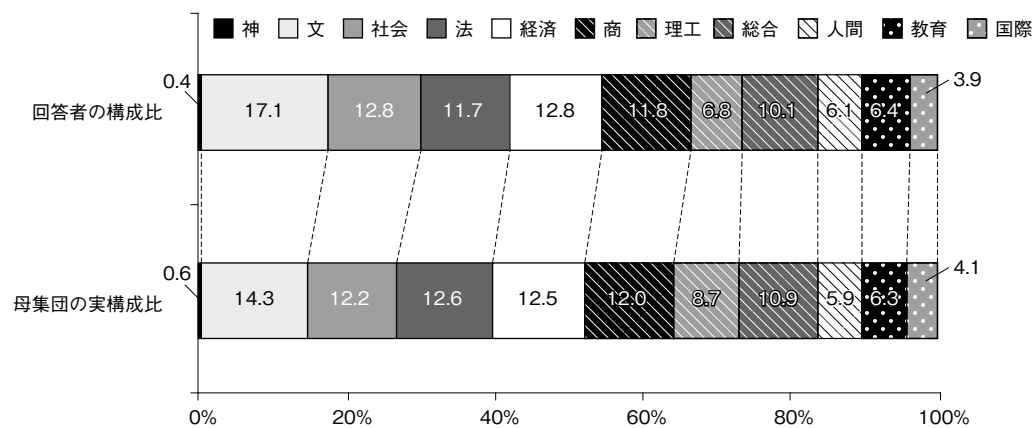


4. 母集団と回答者の比較

回答者の構成比と母集団の実構成比を学部別、学年別、男女別に図1-4-1、図1-4-2、図1-4-3に示す。

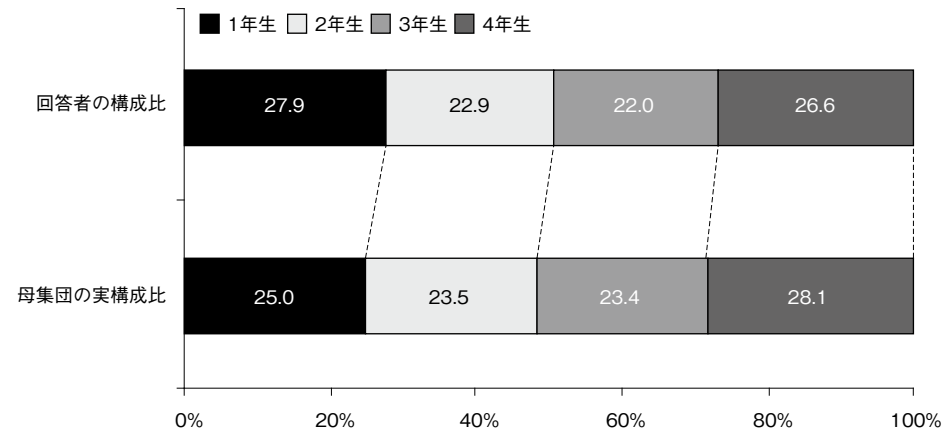
回答者と母集団の構成比率の差について、学部別で見ると、文学部が回答者の比率17.1%、母集団の比率14.3%と+2.8ポイント差でもっとも大きい。理工学部が回答者の比率6.8%、母集団の比率8.7%と-1.9ポイント差となっており、各学部とも、+2.8～-1.9ポイントと±3ポイント以内にとどまっている。

図1-4-1 学部別構成比



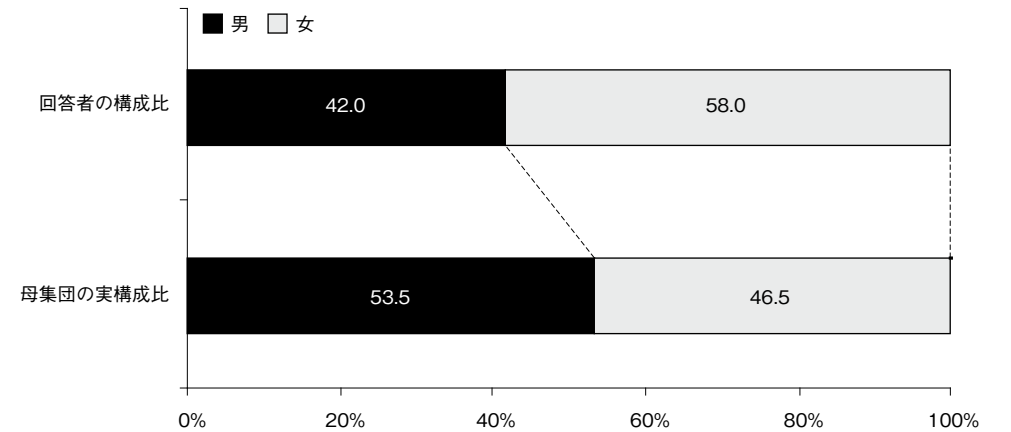
学年別の構成比率の差は、1年生から、+2.9、-0.6、-1.4、-1.5ポイントで、学部別と同様、±3ポイント以内にとどまっている。

図1-4-2 学年別構成比



男女別では、母集団の構成比が男性53.5%、女性46.5%であるのに対し、回答者の構成比は、男性42.0%、女性58.0%と、女性の構成比に11.5ポイントの差がある。

図1-4-3 男女別構成比



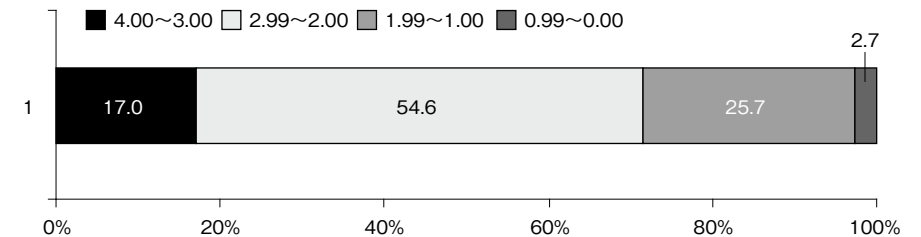
これらの傾向は、これまでの調査とほぼ同様の傾向を示しており、特定の学部・学年の影響を大きく受けていないが、性別については、女性の影響がやや強く表れている調査結果となっている。

5. 回答者の属性

(1) GPA

GPAは、今回から調査項目に加えた。回答者のGPAについて、図1-5-1に示す。4.00～3.00が17.0%、2.99～2.00が54.6%、1.99～1.00が25.7%、0.99～0.00が2.7%という分布であった。なお、母集団のGPAは非公開である。

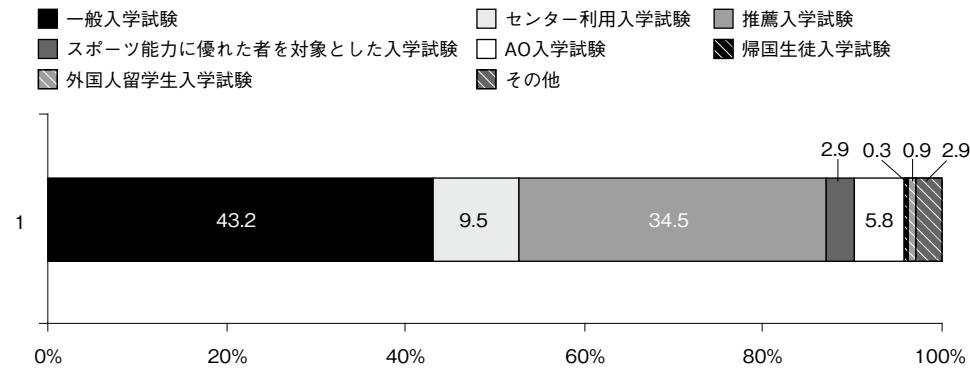
図1-5-1 GPA別構成比



(2) 入試種別

入試種別についても、今回から調査項目に加えた。回答者の入試種別について、図1-5-2に示す。一般入学試験が43.2%、センター利用入学試験が9.5%、推薦入学試験が34.5%、スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験が2.9%、AO入学試験が5.8%、帰国生徒入学試験が0.3%、外国人留学生入学試験が0.9%、という結果であった。社会人入学試験については回答者がいなかった。なお、母集団の入試種別は非公開である。

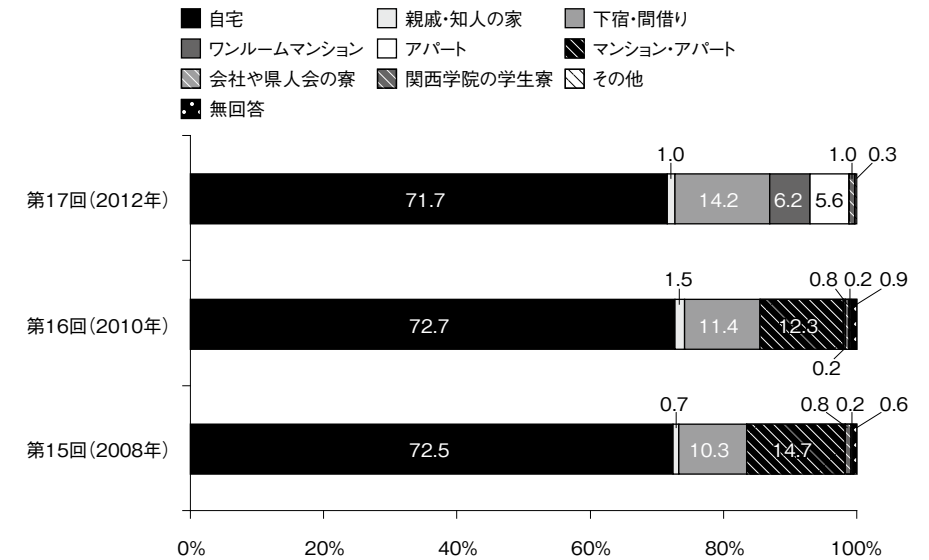
図1-5-2 入試形態別構成比



(3) 住居

回答者の住居について第15回調査(2008年)、第16回調査(2010年)と比較して、図1-5-3に示す。住居については、選択肢の見直しを行ったため、単純に前回との比較は行えないが、自宅生71.7%(前回72.7%)、自宅外生28.3%(26.5%)と、自宅生と自宅外生の比率は前回とはほぼ同様である。自宅外生の居住形態は、下宿14.2%(前回11.5%)、ワンルームマンション6.2%、アパート5.6%をあわせて11.8%(前回、マンション・アパートという選択肢で12.3%)と、これまで、マンション・アパートの学生の方が下宿の学生よりも多かったが、今回逆転している。

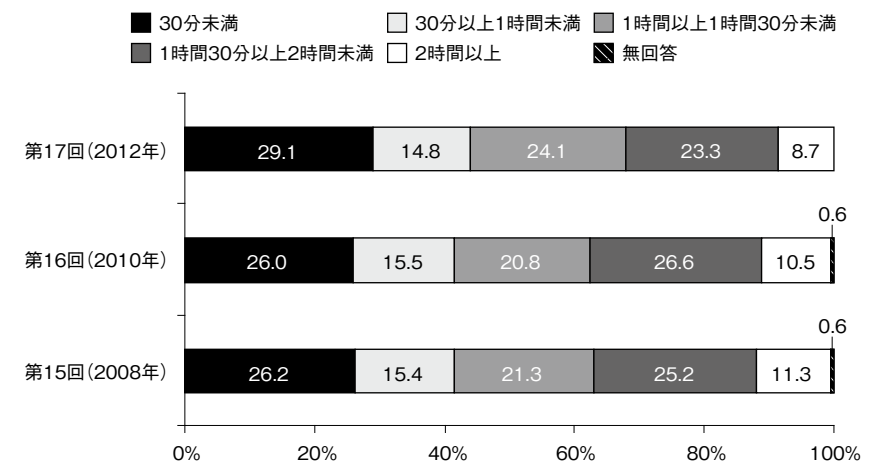
図1-5-3 住居



(4) 通学時間

回答者の通学時間について第15回調査(2008年)、第16回調査(2010年)と比較し、図1-5-4に示す。通学時間については、30分未満の学生が29.1%(前回26.0%)、30分以上1時間未満が14.8%(15.5%)、1時間以上1時間30分未満が24.1%(20.8%)、1時間30分以上2時間未満が23.3%(26.6%)、2時間以上が8.7%(10.5%)となった。2006年以降の調査では、30分未満の学生が、27.9%、26.2%、26.0%と減少してきたのが、29.1%と増加している。反対に1時間30分以上かかる学生が、33.5%、36.5%、37.1%と増加していたのが、32.0%と減少した。

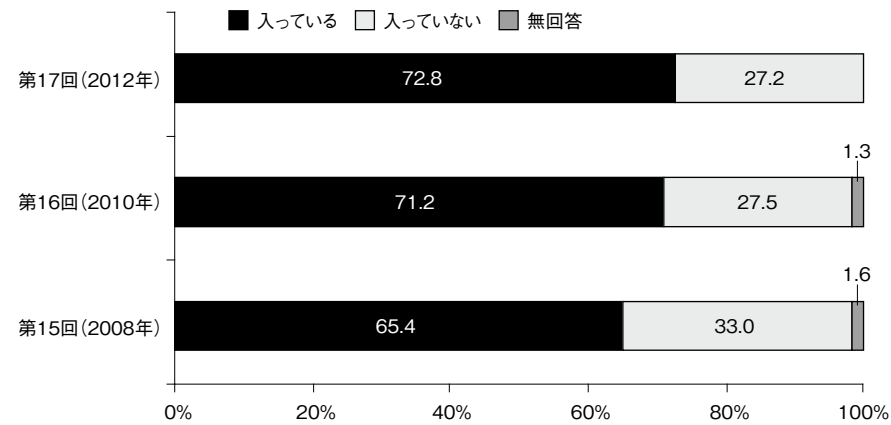
図1-5-4 通学時間



(5) 団体への加入

クラブやサークル等の団体への加入の有無について第15回調査(2008年)、第16回調査(2010年)と比較し、図1-5-5に示す。加入者が72.8%であった。2006年の調査以降62.9%、65.4%、71.2%と増加してきた傾向が続いている。

図1-5-5 団体加入の有無



(6) 支出

表1-3 (p.16) に回答者の1ヶ月の平均支出(授業料、実習費を含まない、自宅外生は部屋代、食費を含む)を1万円単位の階層ごとに示した。さらに住居別の回答者の比率を図1-5-6に示す。自宅生では、2万円台が21.4%、3万円台が17.2%、1万円台が16.8%と多い。一方、自宅外生は、10万円台が27.1%、8万円台が11.0%、12万円台が8.4%という結果であった。

図1-5-6 1ヶ月の平均支出

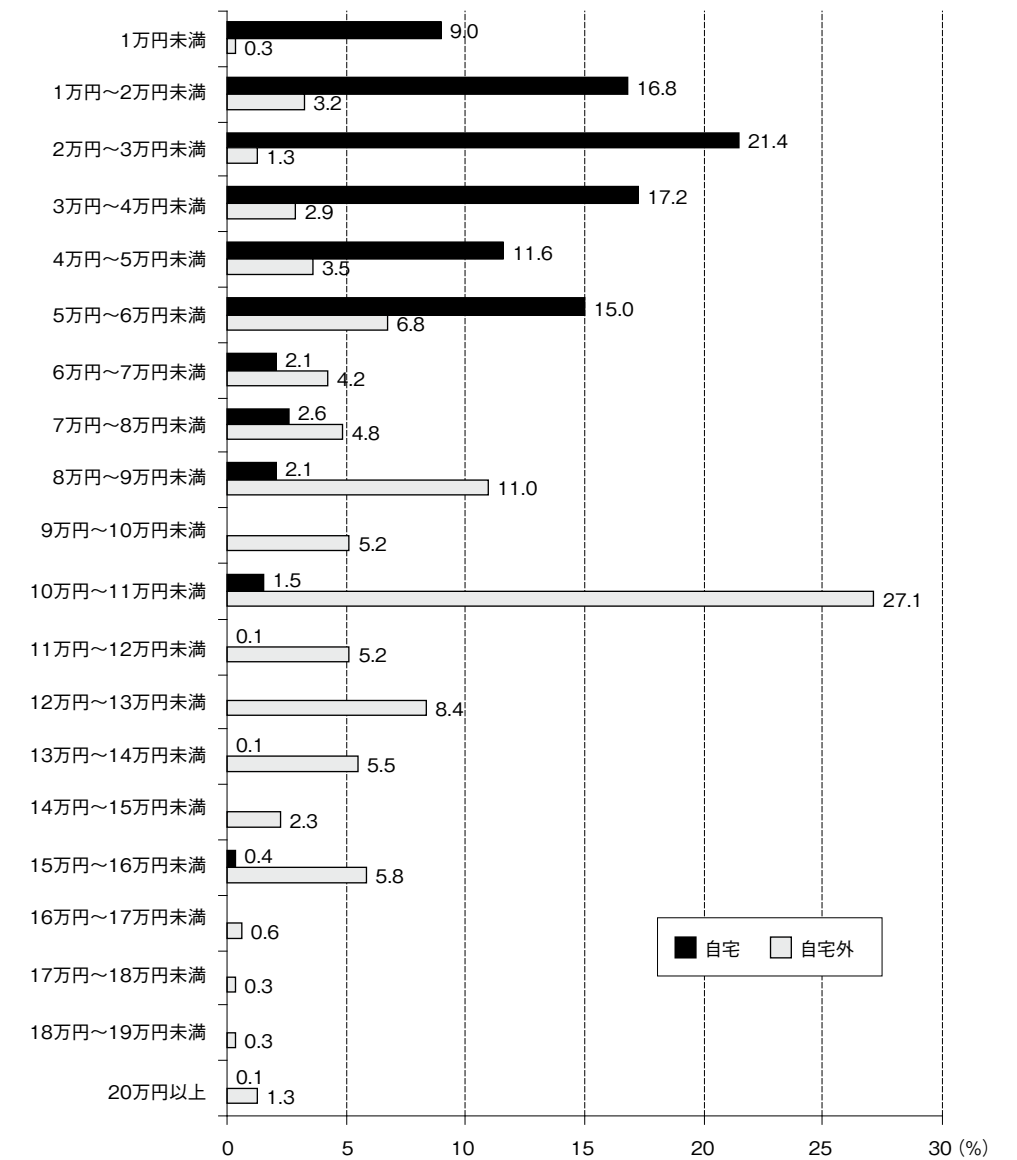


表1-3 回答者の属性（その2）

平均支出額	実数 %		学部別											学年別				性別		住居別	
			神	文	社会	法	経済	商	理工	総政	人福	教育	国際	1年	2年	3年	4年	男性	女性	自宅	自宅外
1万円未満	71	6.5	0	15	9	13	3	8	6	4	2	7	4	33	13	14	11	27	44	70	1
1万円～2万円未満	141	12.9	0	33	18	20	23	9	7	5	13	5	8	47	44	25	25	57	84	131	10
2万円～3万円未満	171	15.7	1	32	19	23	21	23	17	14	5	13	3	59	43	44	25	67	104	167	4
3万円～4万円未満	143	13.1	0	29	19	13	24	16	6	12	9	8	7	38	27	38	40	55	88	134	9
4万円～5万円未満	101	9.3	0	11	17	9	11	9	8	15	7	11	3	23	18	21	39	37	64	90	11
5万円～6万円未満	138	12.7	1	23	15	14	20	20	9	18	9	7	3	30	28	32	49	63	75	117	21
6万円～7万円未満	29	2.7	0	4	1	8	3	6	0	3	1	2	1	3	5	13	8	7	22	16	13
7万円～8万円未満	35	3.2	0	4	2	2	8	3	3	5	4	3	1	8	6	9	12	21	14	20	15
8万円～9万円未満	51	4.6	0	10	5	4	8	10	1	5	3	3	2	11	12	12	16	28	23	16	34
9万円～10万円未満	16	1.5	0	0	3	2	2	3	2	1	1	1	1	6	4	1	5	9	7	0	16
10万円～11万円未満	96	8.8	0	10	13	11	13	11	5	12	6	9	6	24	17	17	38	45	51	12	84
11万円～12万円未満	17	1.6	0	4	2	3	0	2	2	1	1	1	0	5	4	2	6	9	8	1	16
12万円～13万円未満	26	2.4	1	4	4	2	1	1	2	7	3	0	1	7	8	3	8	9	17	0	26
13万円～14万円未満	18	1.7	0	0	7	0	2	2	2	2	1	0	2	6	5	3	4	9	9	1	17
14万円～15万円未満	7	0.6	0	1	0	2	0	0	0	3	1	0	0	1	4	2	0	3	4	0	7
15万円～16万円未満	22	1.9	0	5	3	2	1	5	2	3	1	0	0	2	6	4	10	8	14	3	18
16万円～17万円未満	2	0.2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	2
17万円～18万円未満	1	0.1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1
18万円～19万円未満	1	0.1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1
20万円以上	5	0.5	0	0	0	0	0	1	2	0	0	1	1	1	2	1	1	2	3	1	4

Ⅱ 調査結果

1. 入学動機

(1) 大学への進学動機 (Q10)

「Q10-1 あなたが大学に進学しようと思ったのはなぜですか」とたずねた回答結果を図1-1-1、図1-1-2に示す。第1位となった項目を多い順に並べると、1位「教養や視野の拡大」25.2%、2位「就職に有利」14.8%、3位「専門知識、技術の修得」14.4%、4位「将来の安定した生活」12.2%、5位「皆が行くから」7.0%、6位「就職に必要な勉強をする」5.9%、7位「青春を楽しむ」5.0%となっている。第2位となった項目は、1位から4位までは同じ順番であるが、5位に「青春を楽しむ」11.3%、6位「人格形成」7.4%がランクアップし、続いて7位「就職に必要な勉強をする」、8位「皆が行くから」の順となっていることが特筆される。

第1位を所属学部別にみた場合、上位3つの理由は、神学部では全体平均の順番と異なって「将来の安定した生活」50%、「専門知識、技術の修得」「皆が行くから」25.0%の順となっているが、集計数が少ないため参考までに止める。文学部では、「教養や視野の拡大」36.2%、「専門知識、技術の修得」11.7%、「就職に有利」10.6%。社会学部は、「教養や視野の拡大」22.9%、「将来の安定した生活」17.1%、「就職に有利」15.7%。の順で「将来の安定した生活」が第2位となっている。法学部は「専門知識、技術の修得」23.4%、「教養や視野の拡大」18.8%、「就職に有利」16.4%の順で、「専門知識、技術の修得」が第1位になっている。経済学部は「就職に有利」22.3%、「教養や視野の拡大」17.3%、「将来の安定した生活」15.1%の順で「就職に有利」が1位といったところに特徴がある。商学部は、全体平均と同じ順で「教養や視野の拡大」30.7%、「就職に有利」15.7%、「専門知識、技術の修得」13.4%。理工学部は「専門知識、技術の修得」21.3%、「就職に有利」17.3%、「将来の安定した生活」13.3%の順で法学部同様に「専門知識、技術の修得」が1位となっている。総合政策学部は、「教養や視野の拡大」36.0%、「就職に有利」17.1%、「将来の安定した生活」13.5%。人間福祉学部は「教養や視野の拡大」19.4%、「専門知識、技術の修得」17.9%、「課外活動にはげむ」11.9%の順で「課外活動にはげむ」が第3位に入っている。教育学部は「専門知識、技術の修

Q10-1. あなたが大学に進学しようと思ったのはなぜですか。次の中から入学時に重視した順に3つ選んで回答欄に番号で答えてください。

- | | | |
|-------------|------------|---------------|
| 1 教養や視野の拡大 | 2 人格形成 | 3 専門知識、技術の修得 |
| 4 学問研究 | 5 就職に有利 | 6 就職に必要な勉強をする |
| 7 将来の安定した生活 | 8 青春を楽しむ | 9 課外活動にはげむ |
| 10 皆が行くから | 11 家族がすすめる | 12 先生がすすめる |
| 13 特に理由はない | 14 その他 () | |
- 第1位 [] 第2位 [] 第3位 []